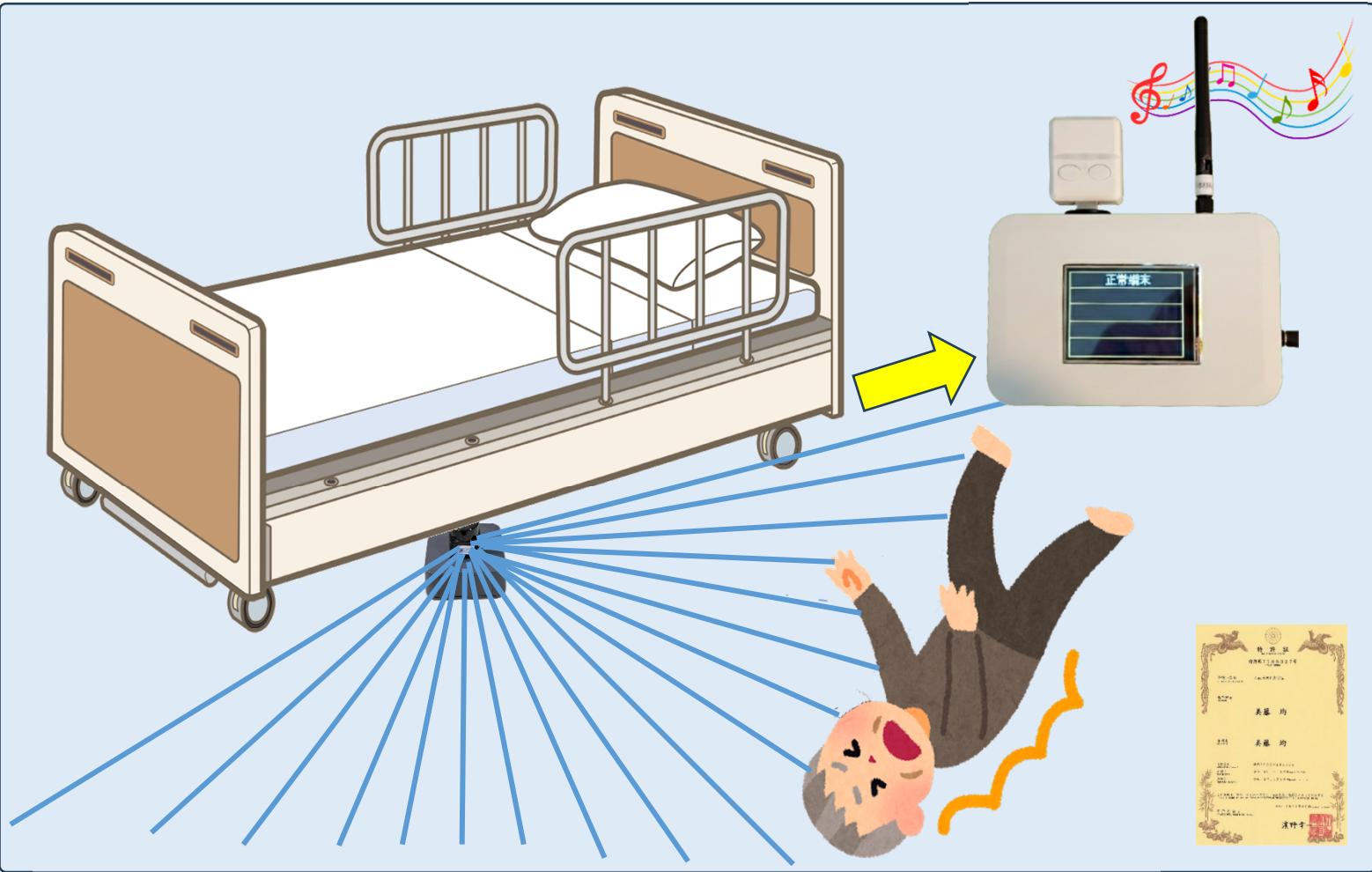
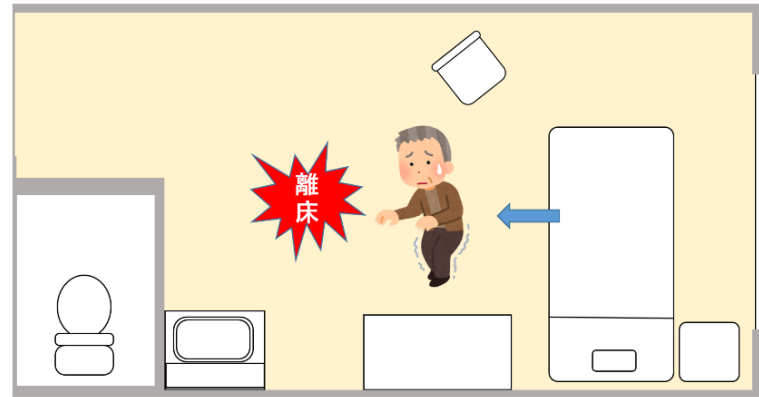
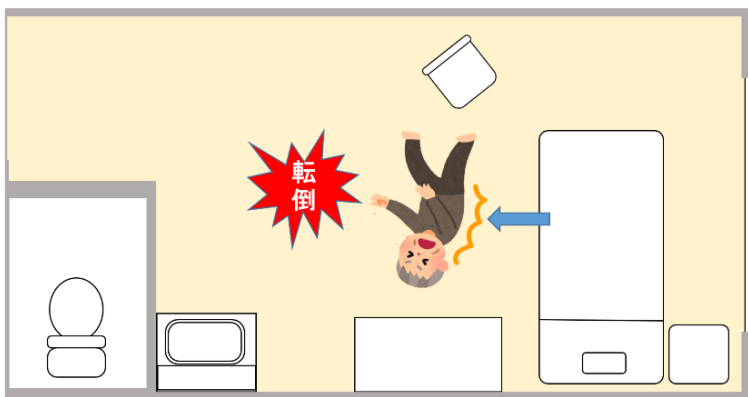


離床・転倒・徘徊 見守りセンサー



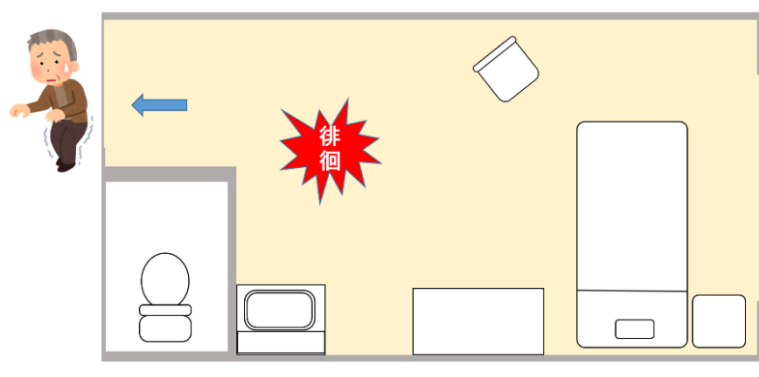
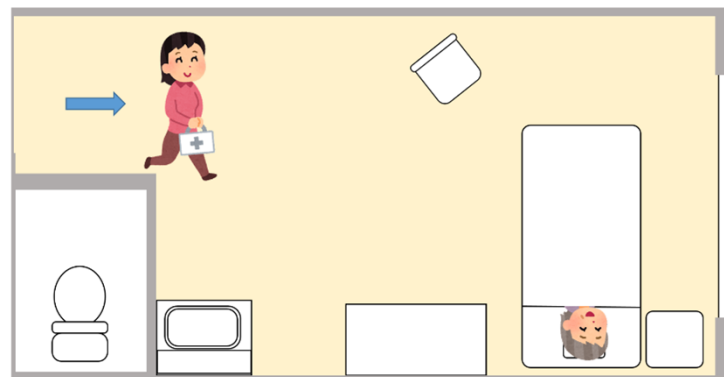
座込んだり寝転ぶと**転倒**と判定します。

ベッドから離れると**離床**と判定します。



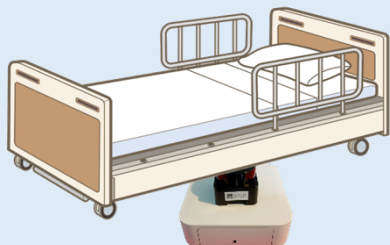
介護者は警報しません。

部屋から出れば**徘徊**と判定します。



離床・転倒・徘徊 見守りセンサー

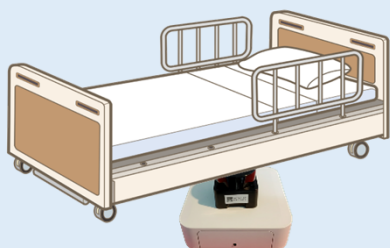
センサー



長距離無線



(LoRa)



長距離無線



(LoRa)

センター装置



システムの概要

- ① 介護施設の個室ベッドの下に設置するLiDarrセンサー(レーダースキャナー)が、入居者の離床・転倒・徘徊の動きを高精度に検知します。
- ② 検知情報は長距離無線通信「LoRa」施設全体をカバーする安定した無線通信です。
- ③ センター装置では、受信した信号をもとに液晶モニターへ端末番号と検知内容(離床・転倒・徘徊)をわかりやすく表示し、同時にチャイム音で介護スタッフへお知らせします。
- ④ 1台のセンター装置で複数部屋(最大40部屋)を一括管理します。
- ⑤ センサーはカメラを使わないのため、プライバシーを守りながら見守りが可能です。
- ⑥ 「簡単設置」で「工事不要」のため、既存の介護現場にすぐ導入できます。
- ⑦ 「介護負担軽減」し、安心・安全な介護環境を実現します。
- ⑧ 離床・転倒・徘徊の監視は「夜間のみ」自動運転で誤検知を防止します。

センサーの設置

- ① センサーはベッドの下に設置します。
- ② 靴やスリッパの影響を避けるためにセンサーは10cm位の台の上に置きます。
ダイソー DICE PIGGY BANK等(10cm角の貯金箱)
- ③ 360度が監視範囲となります。

導入のメリット

- ① スタッフの見守り負担を軽減
- ② 夜間の転倒・徘徊リスクを大幅に低減
- ③ 入居者のプライバシーを守る安心設計
- ④ 事故防止と迅速対応を両立